

令和 5 年度 市民と医療・介護関係者のための合同公開講座 振り返り

1 概要

- (1) 日 時 令和 6 年 3 月 3 日 (日) 13:30~15:30
- (2) 場 所 呉市生涯学習センター 音楽ホール
- (3) 参加者数 154 名 (市民 112 名, 医療・介護関係者 42 名)
- (4) 広 報 ちらし 1 月~ (本庁, 市民センター, 三師会, 包括, 居宅, 見守りネットワーク協定締結事業者, 老人クラブ, 民協等で配布)
市政日より 1 月 10 日発行
その他 市ホームページ
- (5) アンケート結果 別紙 1, 2 参照

2 考察 (振り返り)

(1) 参加者のアンケートより

ア 市民 (別紙 1)

- ・年代は 70 歳代 (41.6%) と 80 歳代 (39.3%) 合わせて 8 割であった。また, 講座に参加した理由では, 「内容に興味があった」「自分自身のため」の回答が最も多かったことから, 70~80 歳代の高齢者にとって「在宅医療と介護, 人生会議」は関心が高く自分ごととして身近なテーマであると考ええる。
- ・広報の手段としては, 市政日より, ちらしが有効であった。
- ・寸劇の内容や質疑応答のわかりやすさ, 参考になったかは, いずれも 8 割以上と高かった。特に寸劇の内容については, 「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答した人は 9 割以上で, 本講座の満足度も高かった。寸劇を用いた講座は啓発する有用な手段の一つであると考ええる。
- ・人生会議に参加したことがない人は 8 割以上であり, 人生会議の啓発が十分でないと感じた。より効果的な啓発と人生会議をしやすい環境づくりが必要であると考ええる。
- ・自身の人生会議を誰かとしてみたいと思う人は 6 割であった。人生会議の実践については本講座の効果を検証することができなかった。次回講座の前後で気持ちの変化があったかを確認する必要がある。
- ・自由意見からは, 「介護保険」「移動支援」「おひとり様問題」についてのニーズが複数あり, 今後の大きな課題であると感じた。地域高齢者の実態に即して内容を展開していく必要があると考ええる。

イ 医療・介護関係者 (別紙 2)

- ・職種は民生委員が 27.8% と最も多かった。
- ・寸劇の内容のわかりやすさ, 参考になったかは, いずれも 8 割以上と高かった。特に寸劇の内容については, 「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と全員が回答し, 本講座の満足度も高かった。市民同様に寸劇を用いた講座は啓発する有用な手段の一つであると考ええる。
- ・人生会議に参加したことがない人は 6 割であった。自由意見からは, 患者 (利用者) や家族の在宅療養を支援するにあたり, 説明力を問われていると感じている医療者や, ACP がゆっくりできる状況でないことが多いという声もあり, 改めて, 医療・介護関係者への ACP 啓発と ACP 支援への体制整備が課題であると感じた。
- ・自由意見からは, 市民同様に「おひとり様問題」についてのニーズが複数あった。家族の形が多様化しているため, 支援方法も多様化せざるを得ない現状にある。市民や地域との連携の在り方を踏まえ, 支援体制の構築を行う必要があると考ええる。

3 今後について（まとめ）

今回様々な関係機関の多大な理解と協力を得たことが本講座の充実につながったことは大きいと考える。何より、参加協力いただいた関係者の皆様が一体となって楽しみながら顔の見える関係を築くことができたことも大きな成果であると考えている。また、改めて市民にとって関心の高いテーマであることが確認されたことから、市民を支える医療・介護関係者への支援体制も強化していく必要があると考える。

人生の最期まで自分らしく生きるために、継続した在宅医療・介護の啓発を行い、市民と医療・介護関係者がより人生会議しやすい環境を創ることが必要であると考えているため、今回得た課題を踏まえ、発展的且つ継続的に実施していきたい。